

平成30年度事業報告書(H30. 4. 1～H31. 3. 31)

現在、わが国では最重要課題のひとつである「健康寿命の延伸」を目標に、官民間問わず、また地域や職域を越えて様々な取り組みが実施されています。特に疾患の普及啓発分野に携わる公益法人、NPO法人等においては、国民へ直接働きかける一方、指導者・教育者の養成と彼らが活躍できる場の確保という方策が大きくなってきています。こうした現況に対応し、骨粗鬆症財団では『連携と共創』（普及啓発事業）を掲げ、それに沿って平成30年度の事業を実施して参りました。

その事業の柱となった「骨粗しょう症連携手帳」、情報紙「カノープス」は、新たなルートの開拓や啓発ターゲットの拡大に一定の効果を得ています。今後も一層の拡充を図ることで、継続的な実施が可能となるよう、課題となる資金源の獲得という面にもつなげていきたい狙いです。また、マスコミを通じての周知拡大を目指し、プレスセミナーに加え、ニュースリリース配信サービスを利用し、世界骨粗鬆症デーや調査研究事業で得られた結果の情報提供を行いました。

なお財務面においては、会費収益と事業収益を合わせた2つの収益の合計は昨年比約1,200万円の減少となりました。この財務結果について経費削減のみで解消を図るのは困難なことから、新規会員の確保、既存事業の縮小あるいは既存事業における収益拡大のための方策、新たな収入源の開発など、今後検討を要するものと思います。

【公益目的事業】

(1) 普及・啓発事業

イ) 骨粗鬆症に関する資材・資料の作成と配布

〈既存の資材〉

- ・リーフレット／小冊子／ポスター
ホームページの請求フォーム、電話等から受付、原則無料配布
- ・「骨粗しょう症連携手帳」→後述
- ・骨粗鬆症情報紙「カノープス」→後述

〈新規作成資材〉

- ・世界骨粗鬆症デー2018 ポスター2種 リーフレット1種
作成デザイン：
 - ① 「5人に1人。」抽選なら当たる気がする
 - ② 「生涯現役」その想い、骨まで伝わっていますか？
 - ・リーフレット版の裏面は「誰にでも可能性がある骨粗鬆症Q&A」
 - ・コピーは宣伝会議賞 受賞作品を活用
- 作成枚数 ポスター 16,500枚／リーフレット 220,000枚
配布箇所 自治体 1,780ヶ所／病院・薬局 3,643ヶ所／関連団体・会員等 254ヶ所

- ・「お母さんのやせは次世代の骨粗鬆症リスクを高めます」※日本宝くじ協会助成金にて制作
主に自治体、病医院を対象に、4,183ヶ所・102,331部配布

ロ) ホームページ、Facebook等での情報発信

- ・ホームページアクセス数(ページビュー: Webページが閲覧された回数)の推移
2017年: 84,365/月
2018年: 91,676/月
- ・「病医院リスト」登録数 2,105件(平成31年4月30日現在)
- ・トップページへのバナー広告掲載で運営費の確保(11社)

ハ) 広報誌等による情報発信

- ・財団ニュースの発行(メール配信)
(主な内容)
No. 33(8月) 「骨粗鬆症啓発のコピーが宣伝会議賞準グランプリを受賞！」

No. 34(3月)「世界骨粗鬆症デーのイベントを金沢、松本で開催しました」

- ・骨粗鬆症情報紙「カノーパス」(eメールによる無料配信、奇数月20日発行)
『カノーパス』編集会議の開催(2回:9/9、3/3)
配信申込状況 679件(平成31年3月31日現在)
骨粗鬆症川柳・体験談投稿者に対し、カノーパス写真付きQUOカード贈呈 6名
- ・PR Times(配信代行サービス)によるプレスリリースの配信
①金沢WOD(10月1日) ②検診率データ(12月4日)
- ・『Osteoporosis Japan PLUS』(ライフサイエンス出版)の編集協力
内容の監修、編集委員会への参加
- ・調剤薬局向けチラシをOATHAS会員に3,500枚配布

二)『骨粗しょう症連携手帳』制作と配布

第2版の作成(10月) 14万冊
配布:572施設 34,614冊(平成31年3月31日現在)
第2版は企業の協力を得て配布開始

ホ)世界骨粗鬆症デー・キャンペーン(WOD)

①ポスターとリーフレットを作成・配布(前述→イ))

②プレスセミナー

日時:平成30年9月28日(金) 15時~16時
場所:霞山会館 牡丹の間(東京都千代田区)
講演:「骨粗鬆症検診の現状—都道府県別の骨粗鬆症検診受診率」折茂肇理事長
「カルシウム摂取不足の実態について」上西一弘先生(女子栄養大学)
「世界骨粗鬆症デーに寄せて~IOFとJOFの取り組みから~」太田博明先生
「みんなで目指そう!健康日本21」金子堅太郎氏(厚生労働省健康局)
ブース:骨量測定体験コーナー
出席者:メディア22社、賛助会員関連20社
掲載媒体:以下をはじめ、39媒体に掲載

週刊朝日(朝日新聞出版)11月9日増大号

「50歳を過ぎたら危険!『いつの間にか骨折』を防げ!」

2018/10/01 毎日新聞東京本社版 朝刊
「骨粗しょう症検診 受診5.2%に低迷」

2018/10/11 健康産業流通新聞
「Ca摂取量 若年層で減少傾向 骨粗鬆症財団が警鐘」

③世界骨粗鬆症デーイベント

「世界骨粗鬆症デー in 金沢 2018」(金沢骨を守る会との共催)
後援:石川県、金沢市、石川県医師会、北國新聞社、NHK金沢放送局 他
特別協賛:日本イーライリリー
協賛:旭化成ファーマ、森永乳業、UCBジャパン、ライフサイエンス出版

【イベント】平成30年10月20日(石川県政記念 しいのき迎賓館)

- ① 骨量測定体験会
- ② 市民公開講座「ストップ・ザ・骨粗鬆症~治る・防げる!」
三浦雅一先生(北陸大学)／折茂肇理事長

③ 世界骨粗鬆症デー2018セレモニー

- 山野之義金沢市長／馳 浩衆議院議員／折茂肇理事長
・書道家 森秀一氏による書道パフォーマンス
・高砂大学校同窓会への社会貢献表彰
・IOF患者憲章(金沢宣言)
・ライトアップ点灯式

【広告・掲示等】

- ・タペストリー掲示
金沢駅東広場もてなしドーム(9月10日～24日、10月15日～21日)
しいのき迎賓館(10月10日～20日)
- ・骨粗鬆症啓発動画の放映
大和百貨店(香林坊)大型ディスプレイ(10月8日～21日)
- ・しいのき迎賓館ブルーライトアップ(10月20日、21日 日没～22時)

「世界骨粗鬆症デー in 松本 2018」

共催：松本市、一般財団法人松本ヘルス・ラボ

【イベント】

- ・「あなたの骨をチェック！骨密度測定体験会 in おとぎ祭」
日時：10月13日(土) 10時～16時
場所：松本短期大学2号館
- ・セミナー「今日から実践！骨を強くする体操と食事のポイント」
日時：10月13日(土) 13時～14時
場所：松本短期大学2号館
講師：中村幸男先生(信州大学)
- ・骨量測定体験会
日時：10月17日(水) 10時30分～16時30分
場所：イオンモール松本 かがやきコート
- ・信州骨を守る会 市民公開講座
日時：10月20日(土) 11時30分～13時
場所：JA松本市会館 501大会議室
講師：中村幸男先生(信州大学)
- ・世界健康首都会議 セミナー「骨と筋肉は何歳からでも若返る」
日時：11月9日(金) 10時～11時
場所：Mウイング(松本市中央公民館)
講師：中村幸男先生(信州大学)

【広告・掲示等】

- ・国宝松本城ブルーライトアップ(10月20日 日没～22時)
- ・松本市キャラクター「アルプちゃん」とWOD資料配布(10月17日 松本駅)

へ) 骨量測定拡大キャンペーン

QUSによる骨量測定体験会の実施

超音波骨密度測定装置(AOS-100SA/日立製作所製)を使用して実施

実施：19回

測定者：2,397名(昨年度1,400名)

ト) 地域骨を守る会の支援・連携

・各骨を守る会に助成金を支給

・第7回「全国骨を守る会連合会」の開催

日 時: 平成30年4月1日(日) 13:00~15:00

場 所: AP東京八重洲通り 11F オールーム

主な議題: 全国10か所の地域骨を守る会活動の紹介
倉敷骨を守る会、群馬骨を守る会が参加
連合会の名称を「全国骨を守る会」と変更

・札幌骨を守る会支援「留萌コホートピアウィーク ～明日の健康を考える～」

日 時: 平成30年11月11日(日) 10:00~12:00

主 催: るもい健康の駅ホール(北海道留萌市)

協 力: 札幌骨を守る会

内 容: 講演「高齢者の口腔ケアの重要性、自分の歯を温存する大切さ」
(えばたデンタルオフィス 江畑育太郎先生)

講演「骨の健康を考えよう! 今からできる対策」
(北郷整形外科 高田潤一先生)

骨量測定体験会、レイモミラニオパラフラスタジオ留萌支部によるフラダンス

・東京骨を守る会支援

日 時: 平成30年12月2日(日) 13:00~15:00

主 催: 健康院クリニック(東京都中央区)

内 容: 講演「もう一つの臓器を知って健康づくりー腸内細菌を味方にしましょうー」
(細井孝之先生、健康院クリニック運動カウンセラー小原桂子先生)

骨量測定体験会

チ) 精度よくDXAで骨量測定するためのeラーニング

ホームページにて無料視聴

視聴申込: 平成31年度 136名(※参考: 29年3月開始より累計816名)

講師: 福永仁夫先生、曾根照喜先生、友光達志先生

リ) 電話、E-mail、ホームページから寄せられる相談・質問等への対応

ホームページから質問・相談 216件(※参考: 29年度 217件)

啓発資材の請求 644件(※参考: 29年度 518件)

ヌ) その他

記事監修・編集協力

・健生ニュース 10月15日号記事「骨粗鬆症～日々の生活から予防を～」監修

・小冊子「三世代で取り組む 骨粗鬆症の予防と治療」: 武田薬品工業企画 監修

・講演(石井事務局長)

平成30年7月7日(土) 9:45~10:45

テーマ「骨粗鬆症について」: 公益社団法人三鷹市シルバー人材センター

・朝日新聞 朝刊折込みパノラマワイド広告(12月30日(日)): 中外製薬企画

「歴史上の偉人と背くらべ」(紫式部、樋口一葉、福澤諭吉、豊臣秀吉のほぼ実物大広告)

・保健師自己学習用動画「学ぼう! 骨粗鬆症」監修: 中外製薬企画

・「いつのまにか骨折」広告(TV、新聞等): 日本イーライリリー企画

(2) 研究助成事業

イ) 平成29年度助成分をまとめ、『研究助成報告集』を作成、執筆者及び関係団体へ配布

- ・第25回財団研究助成報告書 8題(指定 3/一般 5)
- ・第13回リリー研究助成プログラム報告書 10題
- ・第10回旭化成研究助成プログラム報告書 8題

ロ) 平成30年度分として次の3助成に対する交付を行った。

- ・第26回(平成30年度)財団研究助成
- ・第14回(平成30年度)リリー研究助成プログラム(骨領域研究)
- ・第11回(平成30年度)旭化成研究助成プログラム:骨粗鬆症とそれを取り巻く諸問題
(骨粗鬆症に関する臨床研究)

○第26回(平成30年度)財団研究助成の交付 (研究期間:平成30年4月～31年3月)

【指定課題】 助成金額:1件100万円 応募者数 4題

	課 題	所 属	氏 名
1	骨粗鬆症による大腿骨近位部骨折のゲノム疫学研究	国立研究開発法人理化学研究所 統合生命医科学研究センター	池川 志郎

【一般課題】 助成金額:1件60万円 応募者数 40題

	課 題	所 属	氏 名
1	ビスホスホネート製剤関連非定型大腿骨骨折の発生要因に関する組織および有限要素法を用いた解析	新潟大学医歯学総合病院 整形外科	近藤 直樹
2	上腕骨近位端における骨密度評価法の確立	群馬大学医学部附属病院 整形外科	設楽 仁
3	サルコペニア病態における骨格筋由来エクソソームの骨代謝活性の解明	近畿大学医学部再生機能医学講座	辰巳 公平
4	細胞外小胞を介した新しい骨代謝理論の提唱と応用	大阪大学免疫学フロンティア研究センター	丸山 健太
5	思春期の骨量増大に寄与する具体的な運動習慣, 睡眠習慣, 食習慣の検討 -甲州市母子保健長期縦断調査より	北里大学一般教育部 人間科学教育センター 健康科学単位	山北 満哉

(敬称略・氏名50音順)

◇第14回(平成30年度)リリー研究助成プログラム(研究期間:平成30年1月～30年12月)

助成金額:1件80万円 応募者数 38題

	課 題	所 属	氏 名
1	高齢者の大腿骨近位部骨折術後機能回復に認知症が及ぼす影響:VSRADによる解析	岡谷市民病院 整形外科	内山 茂晴

2	骨粗鬆症治療薬はサルコペニアを改善するか？－筋・骨連関の検討－	国立病院機構京都医療センター 臨床研究センター 内分泌代謝高血圧研究部	日下部 徹
3	膠原病・関節リウマチ患者における大腿骨非定型骨折の前兆である外側骨皮質の限局性肥厚(beaking)についてのコホート研究－beaking のリスク因子解析とビスホスホネート製剤休薬症例の後ろ向き検討－	新潟大学保健管理センター	佐藤 弘恵
4	3T-MRI を用いた関節リウマチ骨微細構造の検討	群馬大学大学院医学系研究科整形外科学	須藤 貴仁
5	骨粗鬆症性椎体骨折(OVF)コホート研究による長期予後不良に影響を与える因子の解明	大阪市立大学大学院医学研究科整形外科学	高橋 真治
6	骨粗鬆症性椎体骨折・脊柱変形に関する生体力学解析－椎体骨折が全脊柱アライメントに及ぼす影響および最適な内固定材料を用いた外科的治療の模索－	金沢大学医薬保健研究域 医学系整形外科	出村 諭
7	骨微細構造および μ FEM による骨粗鬆症性椎体骨折の部位予測と骨折機序の解明	横浜市立脳卒中・神経脊椎センター脊椎・脊髄外科	町田 正文
8	骨粗鬆症治療の新たな臨床的意義を探索する前向きコホート研究	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 腎・免疫・内分泌代謝内科学	松本 佳則
9	骨粗鬆症に関するメタボローム解析	慶應義塾大学医学部整形外科	宮本 健史
10	骨粗鬆症患者におけるフレイル(虚弱)のバイオマーカーの探索	慶應義塾大学医学部整形外科	八木 満

(敬称略・氏名50音順)

△第11回(平成30年度)旭化成研究助成プログラムの交付(研究期間:平成30年4月～31年3月)

助成金額:1件50万円 応募者数 64題

	課 題	所 属	氏 名
1	二次骨折予防に対する多職種連携骨粗鬆症リエゾンサービス(OLS)の有効性	埼玉医科大学 整形外科 人工関節診	田中 伸哉
2	大規模糖尿病コホートにおけるロコモティブシンドローム・骨粗鬆症に栄養摂取、運動・活動量が与えるインパクトに関する臨床研究	亀岡市立病院 糖尿病内科	濱口 真英
3	サルコペニアによる運動機能低下は骨粗鬆症の原因となるのか？ 一般住民における縦断研究	サンディエゴ脊椎財団 (San Diego Spine Foundation)	飛田 哲朗
4	関節リウマチ患者における骨粗鬆症薬の費用対効果: IORRAコホートにおける検討	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 膠原病リウマチ内科	古谷 武文
5	オステオサルコペニアの特徴とその予後の解明:地域住民コホート調査より	東京大学大学院医学系研究科外科学専攻 感覚運動機能医学講座整形外科学	堀井 千彬

6	チーム医療で実践する大腿骨近位部骨折における周術期の分岐鎖アミノ酸(BCAA)集中投与によるリハビリテーション栄養の取り組み	国保野上厚生総合病院 整形外科	松本 卓二
7	地域における骨粗鬆症性骨折減少への取り組み; Stop-Fx study	産業医科大学 整形外科	山中 芳亮
8	COPD(慢性閉塞性肺疾患)合併骨粗鬆症に対する治療介入のQOLへの影響—COPDアセスメントテスト(CAT)を用いて—	帝京大学ちば総合医療センター 第三内科	渡部 玲子

(敬称略・氏名50音順)

ハ) 次年度(平成31年度)分の助成募集と選考を行った。

- ・第27回(平成31年度)財団研究助成
- ・第15回(平成31年度)リリー研究助成プログラム(骨領域研究)
- ・第12回(平成31年度)旭化成研究助成プログラム(骨粗鬆症とそれを取り巻く諸問題)

○第27回(平成31年度)財団研究助成(研究期間:平成31年4月～令和2年3月)

募集期間:平成30年11月1日～12月25日

選考委員会の開催:

- ・平成31年1月21日(月) 19:30～21:00
- ・AP東京八重洲通り 12階 Jルーム
- ・選考委員 井上大輔 先生、竹田 秀 先生、岩本 潤 先生、寺内公一 先生

◇第15回(平成31年度)リリー研究助成プログラム(研究期間:平成31年1月～令和元年12月)

募集期間:平成30年7月1日～8月31日

選考委員会の開催:

- ・平成30年10月19日(金) 18:00～18:40
- ・AP東京八重洲通り 12階 Iルーム
- ・選考委員 伊木雅之 先生、遠藤直人 先生、倉林 工 先生

△第12回(平成31年度)旭化成研究助成プログラム(研究期間:平成31年4月～令和2年3月)

募集期間:平成30年9月1日～10月31日

選考委員会の開催:

- ・平成30年12月17日(月) 18:00～19:00
- ・AP東京八重洲通り 12階 Eルーム
- ・選考委員 林 泰史先生、五來逸雄先生、吉村典子先生、小川純人先生

(3) 調査・研究事業

イ) 骨粗鬆症実態調査: ナショナルデータベース(NDB)による骨粗鬆症診療実態調査

- ・第2回日本臨床疫学会 ポスター発表(平成30年9月30日)
「National Data Baseを用いた大腿骨近位部骨折発生率の検討」(玉置淳子先生)
- ・第20回日本骨粗鬆症学会 口演発表(平成30年10月26日)
「介護認定率からみた大腿骨近位部骨折発生状況と骨粗鬆症診療実態—National Data Baseのデータ解析から—」(中藤真一先生 O239)

- ・Osteoporosis Internationalへの投稿が受理され公開
「Estimates of hip fracture incidence in Japan using the National Health Insurance Claim Database in 2012–2015」
「Osteoporosis International」 May 2019, Volume 30, Issue 5, pp 975–983

- ・第5回実態調査WGの開催
平成31年2月3日(日) 15時～17時
AP東京八重洲通り Jルーム
(議題)
 1. 2017年度NDB利用研究の件
 2. 北海道レセプト情報から得られた骨粗鬆症診療の実態について
 3. 今後のNDB利用研究について 等

ロ) 大腿骨近位部骨折患者全国調査(岩手医科大学へ委託研究)

- ・研究担当者: 衛生学公衆衛生学講座 田鎖愛理先生/坂田清美先生
第1回目質問票調査(平成30年1月発送)、必要に応じて回収率が60%程度に達するまで3～4回の調査協力依頼状を発送。
回収された調査票を集計、分析した。(平成31年以降、学会発表・論文公表予定)

ハ) A-TOPデータの再利用研究: 高齢者における骨粗鬆症の病態の多様性について

- ・第20回日本骨粗鬆症学会にて口演発表(平成30年10月26日)
「日本人の骨粗鬆症の年代による病態や特徴について—A-TOP研究登録の患者ベーススライデータを活用した解析—」(飯沼典雄 O42)

(4) 情報収集&ロビー活動等

- イ) IOF 財団ブース展示:
 - ・WCO-IOF-ESCEO KRAKOW 2018(2019年4月19日～22日 クラクフ)
 - ・IOF 7th IOF Regional Osteoporosis Conference 2018(2019年11月30日～12月1日 シドニー)
- ロ) 健康日本21推進全国連絡協議会の情報収集
第21回総会出席(平成30年3月6日(火) 交通ビルB1)
- ハ) 旭化成OLSセミナーにてブース展示(平成30年9月8日(土) 虎ノ門ヒルズフォーラム)

【収益事業等】

- イ) 著作権関連事業
「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン」等からの転載許諾対応